

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 新居浜市立船木中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒792-0856
愛媛県新居浜市立船木甲3754番地の1

E-mail funj-ad@esnet.ed.jp

Website <http://funaki-j.esnet.ed.jp/cms/>

児童生徒数 男子 106名 女子 93名 合計 199名
児童・生徒の年齢 歳～ 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（経済 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

ア テーマ(主題)

環境の視点から、持続可能な発展を目指し、私たちはどのように生き抜けばよいのか考えよう。

イ 主な活動内容について

環境の視点からは、自然環境や社会環境、防災、郷土(ふるさと)等を学習対象にして直接調査を行い、他地域との環境と比較しながら自己との関わりについて考えて活動した。具体的には1年では別子銅山の近代化産業遺産についての直接調査を行った。2年では新居浜と京都との社会環境を比較し考察をした。3年では新居浜の自然環境と社会環境について総合的に考察した。また、全校では地域清掃ボランティアや防災学習会の活動を通して環境と自己との関わりについて考えた。

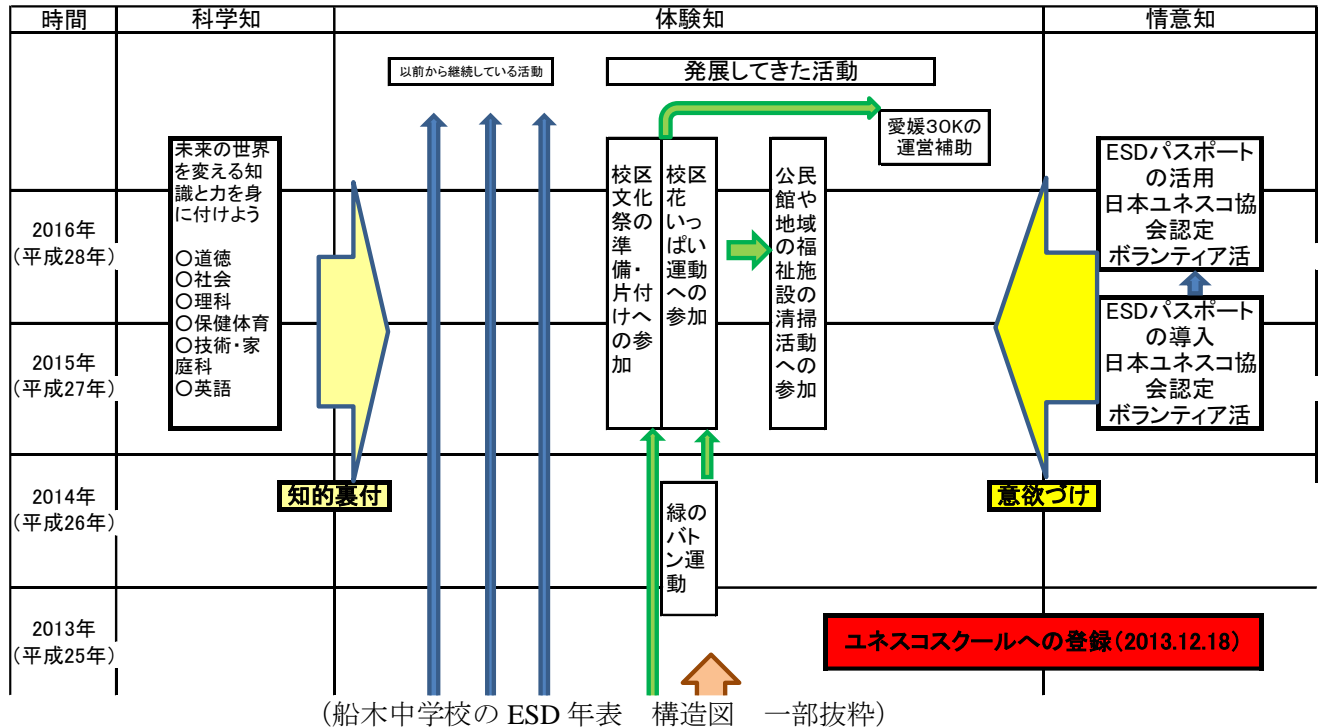
ウ 総合的な学習の時間を中心としたESD

本校では、「持続可能な社会の形成」という上位概念による問いへの探究を通して、体験的な学習による暗黙知や教養の形成を図ることで、より深い人間力の育成を図っている。そして、総合ガイダンスによる探究活動への導きを行うとともに、体験学習の効果的な配列を工夫して年間指導計画を作成した。その結果、上位概念に環境の視点からアプローチする体験学習を構築するという系統性を持たせることができた。

エ 本年度における特徴的な具体的取組について

(ア) 時系列に体験活動を配列した構造図を作成し、関連を俯瞰した。

構造図にまとめることで、環境、地域、ボランティア活動について、各知識との関連で整理することで、環境教育を中心とするESD活動が本校の特色であることが明確になった。



(イ) 講師を招いての研修会開催と環境教育カリキュラムデザイン研修会参加による課題解決

上越教育大学から志村喬教授を招き、教科教育におけるESD実践—社会科を事例に—という題目で研修会を行った。結果、次のようなことを学べた。

- ①基本概念：教科・分野の固有概念に、E S D原理概念（「将来への時間軸」「（社会の中で）知覚・決定・行動する人間像」）を加える。
- ②学習対象：対象を多面的にとらえる（環境側面＋経済側面＋社会側面）。身近な「地域」「社会」を様々な「スケール」と「立場」で見つめ直す。
- ③学習方法：資料からの課題発見・探究が基軸となる（ロールプレイなど参加型学習を活用）。主観・情意を活用し、価値・態度を組み込む。
環境教育カリキュラムデザイン研修会に参加し、他県の教員や環境カウンセラー協議会の方、公共財団法人の方とグループワークを行い、生徒の生活に根ざした問いに基づく活動の重要性を学んだ。

(ウ) 成果と課題

環境の視点から探究する総合的な学習の時間の学びに、各教科や道徳の時間の学びを加えて、生徒の生活に根ざした問いから探究するE S D活動を実施するという青写真ができた。これまでの実践を基盤に、生徒の生活に根ざした問いの集約が次の課題といえる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ _____ ）